

学校教育目標	学校教育目標「みがき 認め合う 輝く一小の子」 (知) やるべきことをきちんとやり、課題や問題に挑戦し学び続ける子を育てます。 (徳) 自分や他者のよさを見つめ、認め合える子を育てます。 (体) すずんで健康づくりに取り組み、自分や他者の生命や体を大切にすることを育てます。 (公) まちに学び、まちの人と関わる子を育てます。 (開) ささまざまな人とコミュニケーションをとり、共に生きる子を育てます。				
	創立 48 周年 児童生徒数: 588 人	学校長 瀧田 健二 主な関係校: 港南台第一中学校	副校長 竹端 岳	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	港南台第一中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
情報活用能力  自分づくりに関する力	港南台第一中学校 港南台第二小学校 港南台第三小学校	「まち」でともに生き、「まち」でともに「学び」、 「まち」をともに作る子ども  ①港南台の「まち」の特性や子どもの実態をつかみ、どんな「まちの子ども」にしていきたいか、一中ブロックらしさをより明確にする。 ②9年間を見通した、主体性(自分のよさや可能性を認識し、積極的に学び続ける姿勢)、協調性(多様な他者と協力し合う豊かな心)、創造性(多角的・多面的に物事をとらえ、新たな価値を創造できる能力)の育成を図るための、連続性のある学習指導の実践を進める。

中期 取組 目標	○学校教育目標の実現のために、誰もが安心して笑顔で過ごすことのできる学校づくりを目指します。 ・子ども一人ひとりが、分かる楽しさや達成感を実感できる授業づくりを推進します。 ・自ら学び、自ら考え、自信をもって行動する子どもを育てます。他者とつながり、社会とつながり、ともに高め合う子どもを育てます。 ・自分のよさや相手のよさに気づき、互いに認め合い、子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりを進めます。 ・情報教育を推進し、教科横断的に情報活用能力の育成を図ります。教育の情報化、ICT活用を推進します。 ・学校、保護者、地域が共に手を取り合い、子どもたちの健全な育成を図り、信頼される学校づくりを目指します。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>知 学力向上</b> 担当 学力向上プロジェクト	① 知識等の定着を図る授業とそれらを活用・応用した授業をバランスよく計画的に進める。 ② 主体的に問題に取り組むために、学び合うこと、伝え合うこと、認め合うことができる場面の構築を図り、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ③ 指導の狙いに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。
<b>徳 豊かな心</b> 担当 豊かな心プロジェクト	① 子ども人権会議や児童会活動の取組を通して、子どもの人権意識を一層高めていく。決定事項や全校で取り組みたいことについて周知し、より主体的に取り組めるようにする。 ② 教職員の人権意識を高める研修を実施するとともに、人権教育を充実させる。 ③ 感染症対策が必要なことを踏まえながら、できる限り異学年同士の交流を広げ、相手を思いやる気持ちを育てる。
<b>体 健やかな体</b> 担当 健やかな体プロジェクト	①「感染症予防」を推進するとともに、自らの健康は自分で守り、生活していく習慣を身につける。 ②「命の授業」の取組により効果的な時期や内容の吟味を行う。 ③基礎体力の向上を図るため、体育や休み時間等を活用し、リズム縄跳びや大縄跳びに全校で取り組む。
<b>公 自分づくり教育 (キャリア教育)</b> 担当 環境・キャリア教育推進部	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や企業にかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。
<b>特別支援教育</b> 担当 校内支援委員会	①一般級、個別支援学級問わず、すべての学級において環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザインについて理解する。②障害を理由に、授業に参加できない状況にないか常に教育活動を見直し、誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。③保護者や児童、管理職とよく話し合いながら教育的配慮を必要とする児童に適切な配慮をしていく。
<b>児童生徒指導</b> 担当 こうない校内支援委員会	①学校スタンダードをもとに児童が安心して過ごせる学校運営に努める。②職員会議や支援委員会において、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」「児童アンケート」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童、家庭へのこまめな連絡をし、学習の支援の在り方を探り、学びが継続できるようにする。
<b>いじめへの対応</b> 担当 校内支援委員会	①いじめについて職員一人ひとりが意識を高く持てるよう研修や話し合いの場を設ける。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過観察を怠らぬことにより再発防止に努める。③年3回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
<b>人材育成・ 組織運営(働き方)</b> 担当 教務部研修担当	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって若手同士で研鑽できる部分を育てていく。②定期的に、教務会及び学年研究会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
<b>地域学校協働活動</b> 担当 教務部学校運営協議会担当	①地域コーディネーターを中心に、新入生児童のサポートや児童見守り活動を保護者と協力して取り組んでいく。 ②学校運営協議会を中心に地域と連携して、児童の健全な育成につとめる。③周年行事等を通して、学校と地域の関係を深めていく。
担当	a25